

群馬県内科医会だより

No. 25 平成19年9月7日

目次

平成19年度群馬県内科医学会	・・・	1
第3回感染症研究会	・・・	2
第3回群馬県もの忘れ研究会	・・・	2
武見氏落選で唐澤日医連委員長が会見	・・・	4
准教授と助教	・・・	5
渋川地区内科医会だより	・・・	6

平成19年度群馬県内科医学会

日時 平成19年10月20日(土) 14時

場所 群馬ロイヤルホテル 2階 鳳凰の間

一般演題1 33歳で発見されたischemic DCMの一症例

医療法人関越中央病院 循環器科 村中 祐真、安藤 寿章、新島 和
循環器外科 大野 英昭

2 下肢深部静脈血栓症にて発症し下大静脈内に血栓を認めた プロテインC欠乏症の一例

北関東循環器病院 内科 岩崎俊弥 新木義弘 小泉 聡 金井宏義 笠間 周
伊藤敏夫 澤田芳枝 熊倉久夫 高山嘉朗 市川秀一

3 脈波伝播速度(PWV)、Augmentation Index(AI)と内臓脂肪量との関連

樹心会角田病院 循環器科 長沼文雄、内山 強、南波美伸、角田紘二

特別講演1 高齢者の高血圧について

群馬大学医学部附属病院臨床試験部准教授 中村哲也先生

特別講演2 血栓症をめぐる最近の話題ー特に抗血小板療法についてー

慶応大学医学部 学部長 内科教授 池田康夫先生

《編者注》特別講演2の池田康夫教授についてはご紹介するまでもないと思う。現在、日本臨床内科医会を中心におこなっている、アスピリンによる脳卒中・心筋梗塞一次予防法調査(JPPP)の主任研究者である。現在この研究に参加している県内の病院、診療所は15施設、登録症例数は175。わが国では、抗血小板療法については最も造けいのふかい先生である。本講演で、アテローム血栓症の成因についても最近の研究動向がうかがえると思う、大変楽しみな講演である。

第3回 群馬感染症研究会

平成19年6月30日(土)18時よりマーキュリーホテルで開催されました。

58名の参加があり、下記の講演のあと、熱心な質疑が行われました。

講演1 『クラミジアによる性感染症 ~最新の実態と現場での対応について~』

愛知医科大学産婦人科学講座 講師 野口 靖之 先生

男性では、尿道炎・精巣上体炎、前立腺炎を起こすが、症状が少なく放置されていることが多い。女性では、骨盤内感染を起こし、放置すると卵管機能が廃絶され不妊症になる。妊婦の感染では新生児封入体結膜炎や肺炎を引き起こす。診断・治療には専門医の受診が必要である。一般医での抗体検査・初尿検査等もスクリーニングとして有用であるが、治癒判定は難しい。近年の若年罹患者の増加は大きな問題であり、学校医等とも十分な連携を取って対策を立てる必要がある。

講演2 『内科・小児科領域のクラミジア感染症 ~最新の実態と現場での対応について~』

国立感染症研究所ウイルス第一部第五室長 岸本 寿男 先生

内科・小児科領域のクラミジア感染症としまして、オウム病クラミジアの肺炎、肺炎クラミジアの呼吸器感染症、喘息・動脈硬化への関与について御説明頂きました。

オウム病は 4類感染症全数把握疾患であり、病原体の検出か血清学的診断をして届け出ることになっている。診断後は感染源についての検索も重要。輸入鳥が増えているため注意が必要。ペット販売業者の責任も問題となる。鳥展示施設でも、鳥の管理不備による流行があり、注意が必要。インコやオウムに多いが、多種の鳥に見られる。30代から60代に発生が多いが、全年齢に認められる。症状に比べ、白血球の増加が少ないが、初期治療が不適切な場合には重症化する場合も多い。治療は、マクロライド系の薬剤であるが、重症例にはMINOの点滴を行う。

クラミジア肺炎は、全年齢に見られるが、小児とともに、高齢者に多く発生している。また、感染に伴い、喘息の発生や動脈硬化への関与が考えられており、重要な疾患である。(川島 崇)

第三回群馬県もの忘れ研究会

群馬県内科医会病診連携セミナー

ナー

日時 平成19年7月18日(水曜日) 場所:群馬ロイヤルホテル

一般演題2題、 「認知症の早期発見・早期対応のために」

群馬県もの忘れ検診の取り組み

群馬県医師会 理事 川島崇先生

「認知症の画像診断」

群馬大学大学院 脳神経内科学 准教授 田中真先生

特別講演 1 題、「認知症の理解と対応」

きのこ会きのこエスポワール病院（岡山県）

副院長 藤沢嘉勝先生

講演内容要旨

一般演題 「認知症の早期発見・早期対応のために」

群馬県医師会と自治体が協力し、もの忘れ検診が2001年から県内5箇所
所で毎年実施されている。各年度別の受診数、脳健康度チェック陽性者
数、医療機関受診状況、認知症と診断された患者数などについて発表し
た。

その中で注目されたことは

- 1) MSQという質問調査内容では不適當なところが分かり、2002年からはMMSEを使用した。
- 2) 脳健康度チェックは当初20項目だったのが、更に感度上昇のために10項目に絞った。
- 3) 年々受診者数が増加し個別検診は高崎市のほか太田市も参加したこと
- 4) 一般県民の啓発のために健康フォーラムin 群馬を開催したこと。
- 5) これらを通して医療側の認知症への関心が高まり、診断レベルの向上が見られてきたことなどであった。

今後認知症に対する医療、行政の取り組みは更に大きな問題となっていくと考えられる。

主な個別検診実施の自治体を高崎市、太田市以外にも広げていくことが必要と考えられました。

2 「認知症の画像診断」

認知症の各病型とSPECTについて症例を含めて呈示した。現在はSPECTをeZIS法（正常脳との偏りを画像化した方法）で見ることも行われている。

FTD（前頭側頭葉型認知症）では前頭葉での血流低下、DLB（レビー小体型認知症）では後頭葉の血流低下が見られる。またCBD（大脳皮質基底核変性症）の症例のビデオを呈示した。

DLBとアルツハイマー型痴呆との鑑別には心筋シンチが極めて有用であることを示した。

3 特別講演

きのこエスポワール病院では各種の老人施設を一同に集合し、患者の

病態に合わせたユニットを選ぶように心がけている。症状に応じて5つの群に分けている。

患者のこれまでの生活史を大切にし、個別性を尊重したケアがBPSD（認知症の行動・心理症状）を著しく改善する。各認知症例をビデオを併用し具体的に示した。

症例は脳血管障害性認知症、アルツハイマー型認知症、LBD、FTDであった。

まとめとして

1. 個人中心のケア
 2. BPSDはまず受け入れる態度が必要
 3. 介護力、マンパワーは治療する力となりうる
 4. 治療はケアと薬物両者で行う
 5. 生活療法を重視することが必要
 6. 家族支援、施設間での協力が大切
 7. チームワーク医療が求められる
- との講演だった。)(菅野 仁平)

《编者注》認知症の新しいケアを展開、実践している藤原先生の講演は、医者は出しゃばってはならない、向精神薬は通常量の10分の1～20分の1から使用する等々認知症患者の診察から治療までビデオを交えてのお話であった。適切な鑑別診断、疾患の特徴を理解、把握しケアしなければならないと感じた。また医療、看護、介護が一体となって当たらなければ解決しないことを強調された、フロアーには看護師、介護福祉士を含めて150名余の参加者があふれた。

武見氏落選で唐澤日医連委員会が会見（日本医事新報 〃07年8月11日号）

唐澤委員長は「日医連が統一步調で戦えなかったことも大きな反省材料」と述べ最後まで近畿ブロックの協力を得られず、事実上組織が分裂したことが原因の1つ。

「消えた年金」問題、閣僚の不適切発言、事務所費問題などで自民党に逆風が吹いたこと。

国政の場での武見氏の実績が各方面に十分に伝わらなかったこと。来年の診療報酬改定への影響に力になったのに残念。

また中川俊夫委員は得票数の分析結果を日医A1会員（病院・診療所の開設者・管理者等）一人あたり得票数は、九州ブロックが高く近畿ブロックの各府県は1票未満と低い。

また前回の得票数との比較で減少が目立つのは近畿ブロックの他茨

城、群馬、埼玉、新潟、富山、岐阜、三重、岡山、広島、徳島などの各県、増加が目立つのは栃木、静岡、佐賀、熊本、鹿児島などの各県で特に鹿児島が4575票増と突出している。

茨城県は自見庄三郎票が武見票の5.1倍となっており、医師の自見氏（国民新党）に大幅に票が流れた。

《编者注》夜半まで確定がもつれこんだ。結果に誰しも肩を落としたと思う。職域代表である、武見氏がいなくなり、1年生議員の西島氏一人になってしまった。日本医師会としては来年の診療報酬改定へむけ、まず議会对策を考えなければなるまい。しかし群馬県の得票数が1,657票とは、あきれた。医師会で集めた武見氏の後援会入会申込書には、6939名が登録したようだ。登録した人数の1/10がせいぜい出ると言われるなか、どうして危機感を持たなかったか、不思議なくらいだ。かって群馬県から10万の票を出し、100万を超える得票で当選した丸茂氏、こんな選挙は夢になってしまった。ポスターは無駄になるだけ、外用のポスターを見掛けることはなかった。

准教授と助教

今年の4月くらいから「准教授」、「助教」という言葉を耳にし目にするようになった。以下は医事新報、週刊誌、yahooから。

正しくは「准教授」で「准」は、岩波国語辞典によると「じゅんずる、なぞらえる」の意味で「準」の俗字とある。

学校教育法の一部が改正され4月1日から助教授はなくなり、代わりに准教授が置かれることになった。

改正前には、大学には学長、教授、助教授、助手及び事務職員を置かなければならないとある。改正後では、学長、教授、准教授、助教、助手及び事務職員を置かねばならないとなっている。

改正前は、「助教授は教授の職務を助ける」改正後では、「准教授は専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の優れた知識、能力及び実績を有するものであって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。」とある。

「助教は、専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の知識及び能力を有するものであって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。」

助手は、その所属する組織における教育研究の円滑な実施に必要な業務に従事する。

講師は、教授又は准教授に準ずる職務に従事する。

《编者注》中央教育審議会の提言で改称された。assistant professor より associate professorのほうが海外での発言等で説得力が違ふとのこと。地方自治法の改正

で助役が副市長になり、収入役が廃止になった。これも同じようなものか。

渋川地区内科医会だより

今年ももう半年目に入ってしまったが、渋川地区内科医会の現況につき、ご報告させていただきます。

平成19年4月9日(月)渋川プリオパレスにおいて、すでに今年度に入ってしまったが渋川地区内科医会総会を開催させていただきました。神山会長の御挨拶の後、議題に移り、以下の事項が審議、承認されました。

1. 平成18年度 講演会等の活動報告

平成18年度内科医会学術講演会一覧を提示いたします。例年通り、会員の先生方の御講演を含め多岐にわたる内容の講演活動となっております。

平成18年 5月20日(土)糖尿病学術講演会 19:00～

(場 所) 群馬ロイヤルホテル 「ふじなみの間」

(演 題) 「糖尿病治療の初期治療」

京都府立医科大学 病院教 内分泌・糖尿病・代謝内科
診療部長 中村 直澄 先生

平成18年 9月22日(金)学術講演会 19:00～

(場 所) 渋川地区医師会館

(演 題) 「脳外科疾患を疑うとき-最新治療を踏まえて-」

新潟大学 脳研究科 脳神経外科学分野
教 授 藤井 幸彦 先生

平成18年 10月25日(水)渋川地区喘息治療勉強会 19:00～

(場 所) 渋川プリオパレス

(演 題) 「喘息治療におけるガイドライン薬物治療」

塚越クリニック
院 長 塚越 秀男 先生

平成19年 2月5日(月)学術講演会 19:00～

(場 所) 渋川プリオパレス

(演 題) 「開業医としての心房細動治療」

神山内科医院
院 長 神山 憲王 先生

平成19年 3月27日(火)平成18年度 予防接種従事者講習会

(場 所) 渋川地区医師会館

(演 題) 「予防接種に関する最近の話題」

国立感染症研究所感染症情報センター

上野 久美 先生

2. 平成18年度 会計報告と承認

ほぼ例年通りの決算となり、監査を経て承認されました。

3. 平成18年度の役員の変更

会長：神山 照秋(再任)

理事：佐藤 則之(再任)、川島 崇(再任)、中野 正幸(再任)、塚越 秀男(新任)

会計監事：井口 千春(再任)、高橋 敏(再任)

の体制となり承認されました。また顧問には桜井 芳樹 渋川地区医師会会長に前期に引き続き就任いただきました。

3. 渋川地区での今年の学術講演会等の予定

についても審議されこのうち以下の講演会はすでに開催済みとなっております。

平成19年 4月9日(月) 渋川地区内科医会講演会 19:00~

(場 所) 渋川プリオパレス

(演 題) 「糖尿病対策におけるCKDについて」

川島内科クリニック

院 長 川 島 崇 先 生

平成19年 4月26日(木) 学術講演会 19:00~

(場 所) 渋川地区医師会館

(演 題) 「過活動膀胱の最近の知見」

信州大学 泌尿器科

教 授 西 澤 理 先 生

平成19年 5月19日(土) 糖尿病学術講演会 19:00~

(場 所) マーキュリーホテル 本館 3F 「紫宸の間」

(演 題) 「糖尿病の血糖コントロール」

-最近の治療戦略と地域医療-

富山大学医学部附属病院

病院長 小 林 正 先 生

平成19年 5月24日(木) 学術講演会 19:00~

(場 所) ホワイトパーク

(演 題) 「心血管疾患予防における脂質管理の重要性」

千葉県循環器病センター

内科部長 田 代 淳 先 生

平成19年 7月9日(月) 学術講演会 19:00~

(場 所) 渋川プリオパレス

(演 題) 「認知症の早期発見・早期対応のために」

- 群馬県もの忘れ検診の取り組み -

群馬県医師会

副会長 月岡 関夫 先生

また9月9日には市民公開セミナーを以下の内容で開催いたします。

糖尿病を考える市民公開セミナー

プログラム

日時：平成19年9月9日（日） pm1:00～5:00

場所：渋川プリオパレス 渋川市金井1296

TEL 0279

23-0033

シンポジウム pm2:00～4:00

挨拶1：渋川市長

挨拶2：渋川地区医師会長

演題 「生活習慣病と糖尿病」

講師 群馬大学医学部教授 伴野 洋一先生

演題 「食べ物神話の落とし穴 - 糖尿病と食の情報 -」

講師 群馬大学教育学部教授 高橋 久仁子先生

パネル展示 pm1:00～5:00

糖尿病の診断、合併症、治療などに関するパネル展示

* 関

連資料（冊子等）も配布します

体験コーナー pm1:00～5:00

健康相談・血糖測定・HbA1C測定・血圧測定など

多くの方にご来場いただきたいと思いますので、宜しく願いたします。

その他 CKD（慢性腎臓病）対策についての講演会などや喘息治療勉強会、予防接種従事者講習会、感染症研究会などを今年度中に開催を予定しております。また引き続き会員の先生方の講演会も継続していきたいと思っております。

このほかに特定検診や保健指導など何かとこれからの開業医の役割が問われる社会情勢となってきましたが、懇親会では終始和やかに会員相互の歓談が続いておりました。

以上簡単ですが渋川地区内科医会現況報告とさせていただきます。

（中野 正幸）

（I.Nagashima）